

2016/2/12

課題領域「コンテンツの拡充」平成 27 年度活動報告及び平成 28 年度活動計画

◎平成 27 年度活動報告

・「IRcuresILL」課題

8/ 5 『ILL』公開

11/19 サーバ移行

・「博論」課題

6/ 8 機関リポジトリ推進委員会 Web サイトに『博士論文のインターネット公表化に関する現況と課題』公開

6/12 「学術情報基盤オープンフォーラム 2015」で『博士論文インターネット公表の実態調査報告』発表

9/10 Current Awareness-E に『博士論文のインターネット公表化に関する現況と課題の調査』掲載

10/14 「HORIZON2020 によるオープンアクセス政策とオープンサイエンスの国際的課題」で『Survey of Internet Publication of Dissertation』発表

12/ 8 ミーティング

1/22 NII から IRDB のデータ提供を受け、博士論文に係る入力指針の検討を開始

・「ELS」課題

JST と NII との協議結果を得てから活動方針を再検討

・「KAKEN からのデータ抽出、公開勧誘実験」課題

7/24 NII から KAKEN のデータ提供を受け、北海道大学、横浜国立大学、新潟大学、岡山大学で実験中

◎平成 28 年度活動計画

- ・平成 27 年度に設けた 4 つの小領域については、一旦、完了としたい。

§「IRcuresILL」については、広報の不足も考えられるものの、11 月 19 日のサーバ移行後、2 月 1 日までアクセスできない状態であったが、特に問い合わせもなく、また、登録コンテンツにアクセスを試みた記録も確認できないことから、当初に計画していた相互利用件数の減少に関する調査等を行う意義は低いと思われる。なお、協力員から提案されている、本件に係るコンテンツの充実に関しては、下記新規小領域の関連事業として要否等を検討したい。

§「博論」については、平成 25 年 3 月の学位規則改正から 3 か年度を経ようとし、現在は安定期というべき状態にあり、解決すべき喫緊の課題は生じていないと思われる。

§「ELS」については、活動報告に記載のとおり。

§「KAKEN からのデータ抽出、公開勧誘実験」については、実験参加大学で特筆に値するコンテンツ充実の効果が確認できず、JSPS 等のオープンアクセス施策の方向性を注視しつつ、今後の活動を改めて検討すべきと思われる。

- ・新規の小領域として、必ずしもコンテンツ領域の範疇ではないが、リポジトリ設置大学等に対して、各大学等の発行する紀要や大学等内部に存する学会発行誌などの登録状況に係る調査を実施したい。本件は、多くの大学図書館で狭隘化が問題となっているが、廃棄可能な冊子の判別に有効であることや、相互利用の補助的資料としても有効と考えられる。